

## 外国語学研究科 博士課程前期課程

### 教育研究上の目的

外国語学研究科博士課程前期課程は、高度な言語運用能力と専門的な知識、豊かな教養を修め、国内外の社会で活躍できる有能な人材の育成を目的とする。

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学研究科博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（中国言語文化学・英語学・日本語文化学）の学位を授与する。

1.

- (1) 各専攻が対象とする専門分野に関する専門的知識・技能を修めている。
- (2) 専門的な職業を担うための必要な語学力・応用力を備えている。

2.

- (1) 一般社会・教育界・各研究分野の要請に応え、内外で活躍できる語学に関する総合力を身につけている。
- (2) 自己の見解を適切に表現・伝達し、また他者の見解を傾聴・理解できる能力及び社会の一員としての強い責任感・使命感・モラルを持ち適切に行動できる能力を有している。

3.

- (1) 各専攻で取得した知識・技能に基づきつつ、旺盛な学習意欲により新たな情報・能力を常に習得し続けることにより、多文化共生を踏まえて国際社会で対応できる高度の専門性の求められる職業を遂行するための能力を身につけている。

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学研究科博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

#### 1. 教育内容

専攻科目では、各専攻で設けられている諸分野（特に言語学関係、言語教育学関係、言語文化学関係）で開講されている「特殊研究」と「演習」を通じて、高度な専門知識と研究能力を修得する。共通科目では、語学研究に必須な学際的な知識と言語情報処理の必要な技術を学ぶ。

#### 2. 教育方法

各専攻における専門分野が研究科目と演習科目を有効に配置しつつゼミ形式で専門知識の習得と調査探究、論文作成を推進し、指導教授による指導を徹底させる。履修者に学会発表や論文投稿を積極的に推奨する上、課題設定、資料収集、論文執筆等の実践能力の向上を重視する。

#### 3. 評価方法

各専攻における修了要件である単位取得数を満たしており、かつ、修士論文は審査委員会（主査1名、副査2名）による口頭試問を経て評価、専攻協議会における審議に基づいて、研究科委員会にて報告し学位授与の可否を決する。

## 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

外国語学研究科博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.
  - (1) 言語学・言語教育学・言語文化学に関する十分な基礎学力を有し、各専攻分野を専門的に学び、研究したいと考えている。
  - (2) 言語運用能力を高め、他言語・文化につき広く知り、言語と文化に対する感性を磨きたいと考えている。
2.
  - (1) 広い知識と深い理論を修め、多様な見解に対応し、自身の見解を主張できる。
3.
  - (1) 国内外の専門家と研究活動の交流を通じ、各専攻分野の研究に意義を見出す意欲がある。
  - (2) 高い向上心を持ち、将来、研究者・教員・高度職業人などとして国際社会、地域社会に貢献したいと考えている。

## 外国語学研究科 博士課程前期課程アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
一般方式	外国語科目	●		
	専攻科目	●	●	
	面接		●	●
社会人方式	外国語科目	●		
	専攻科目	●	●	
	面接		●	●
留学生方式	外国語科目	●		
	専攻科目	●	●	
	面接		●	●
推薦方式	書類審査	●		
	面接		●	●

## 外国語学研究科 博士課程後期課程

### 教育研究上の目的

外国語学研究科博士課程後期課程は、博士課程前期課程で修めた専門知識と言語能力をもとに、研究能力をさらに向上させ、高度な言語運用能力を備え、優れた教育・研究活動を行うことができ、国際社会の専門分野で活躍できる人材の育成を目的とする。

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学研究科博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（中国言語文化学・英語学・日本語文化学）の学位を授与する。

1.
  - (1) 研究機関や教育機関の中核を担う専門分野に関する高度な知識・技能を修得している。
  - (2) 各分野において文献批判・資料収集・分析総合・仮説設定・帰結追究・定理予想、等々の総合力を身につけている。
  - (3) 身に付けた知識・技能を実際の場に於いて創造的に応用することができる。
2.
  - (1) 研究成果を国内外の学会で発表、学術論文として纏め上げ、研究者として自立して研究活動を行う能力を身につけている。
  - (2) 高い倫理観を有し、自立して研究活動を行うための深い学識・綿密な企画・分かり易い表現能力を身につけている。
  - (3) 専門的な職業分野で活躍できる柔軟な思考力と高度な語学力と専門性の高い能力を有している。
3.
  - (1) 自身の研究領域に関して、幅広い知識と柔軟で創造的な思考を身につけ、絶えず情報を収集、分析し、結論を導き論文にまとめ発表できる。
  - (2) 将来、研究者・教員・高度職業人として、多文化共生を踏まえて、国際社会、地域社会において言語研究、多言語文化交流に携わりたいと考えている。

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学研究科博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

#### 1. 教育内容

各専攻それぞれの分野で設置している「特論」と「特別演習」を通じて、高度な専門知識と研究能力を修得する。

#### 2. 教育方法

各専攻の特論科目と特別演習科目を有効に配置しつつ専門知識の習得と高度最先端の研究能力の育成、博士論文の作成を推進し、指導教授を中心とした論文指導を行う。各専攻で定める一定数以上の学会発表・論文掲載が修了要件として設けられ、課題設定、調査探究、理論形成、論文執筆等の実践的な能力の向上を図っている。

### 3. 評価方法

各専攻における修了要件である単位取得数を満たしていること、各専攻で定められた学会発表と論文掲載の本数を満たしていること、更に博士論文に関して審査委員会（主査1名、副査3名）による口頭試問を経て評価、専攻協議会における審議に基づいて、研究科委員会にて報告し学位授与の可否を決する。

#### 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

外国語学研究科博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.
  - (1) 前期課程で学んだ言語学・教育学・文化学に関する確かな学力を持ち、それらをより深く専門的に研究したいと考えている。
2.
  - (1) 広い知識と深い理論を修め、多様な見解に対応し、自身の独自で発展性のある見解を主張できる。
3.
  - (1) 真理に対する探究心と、本質を見抜く審美眼を有し、将来、研究者・教員・高度職業人などとして国際社会、地域社会に貢献したいと考えている。
  - (2) 各専攻分野の言語運用能力を極め、異文化圏の一層の理解を深め、共時的のみならず通時的な言語と文化に対する感性を磨きたいと考えている。
  - (3) 国内外の専門家と研究活動の交流を通じ、各専攻分野の研究に意義を見出したいと考えている。

#### 外国語学研究科 博士課程後期課程 アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
一般方式	外国語科目	●		
	専攻科目	●	●	
	面接		●	●
社会人方式	外国語科目	●		
	専攻科目	●	●	
	面接		●	●
留学生方式	外国語科目	●		
	専攻科目	●	●	
	面接		●	●
推薦方式	書類審査	●		
	面接		●	●

## 外国語学研究科 英語学専攻 博士課程前期課程

### 教育研究上の目的

外国語学研究科英語学専攻博士課程前期課程は、英語学、英語教育学、言語文化学の分野において深い学識を修め、広い視野に立脚した研究能力及び高度に専門的な知識、技能を有する人材の養成を目的とする。

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学研究科英語学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（英語学）の学位を授与します。

#### 1.

- (1) 英語学、英語教育学、言語文化学の各分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ深い知識を身につけ実践的問題を解決できる。
- (2) 現在の知識をもとに、高度の専門性が求められる職業を遂行するための専門的知識、技能を身につけている。

#### 2.

- (1) 英語学・英語教育学・言語文化学の各分野、もしくは複数の分野にまたがる諸問題について、情報を正確かつ批判的に読み取り、それについて自らの考えを述べ、また論文にまとめることができる。
- (2) 自ら設定した主題に関するデータを収集、分析し、結論を導いて発表することができる。

#### 3.

- (1) 新しい情報を常に収集し学び続けることで、急激に変わりゆく現代社会で高度の専門性が求められる職業を遂行できる。
- (2) 異文化に関する知識を深め適切なコミュニケーションが図れる。

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学研究科英語学専攻博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

#### 1. 教育内容

- (1) 英語学、英語教育学、言語文化学 3 分野にまたがる基礎的な知識及びデータ収集と処理を学ぶ共通科目群を置く。
- (2) 異文化理解を深め、自分の考えを英語で発表し論文にまとめる実習科目群を置く。
- (3) 英語学、英語教育学、言語文化学の各分野における先行研究の分析を通じて的確な判断力と自らの思考力を発展させる専攻科目、特殊研究科目群を置く。
- (4) 自ら情報を収集・分析し結論を導き出して発表し、論文にまとめるスキルを養う専攻科目、演習科目群を置く。

#### 2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、専攻科目、特殊研究科目群においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。
- (2) 少人数の専攻科目、演習科目においては、インタラクティブな教育を実施する。

(3) 海外での体験学修の受講（留学）を積極的に推奨する。

### 3. 評価方法

(1) 学位授与方針で掲げられた能力の習得度合いを、英語学専攻における修了要件達成状況、単位取得状況、毎年の中間発表、複数教員による学位論文の評価等の結果によって形式的に測定するものとする。

### 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

外国語学研究科英語学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

#### 1.

- (1) 大学卒業レベルの十分な学力を有している。
- (2) 英語の運用能力を一層向上させる能力がある。

#### 2.

- (1) 英語及び関連する分野について問題意識を持ち、それらについて高度な専門知識や幅広い言語運用能力で判断し、それを効果的に表現できる能力を持っている。

#### 3.

- (1) 国内外の研究領域に対し、幅広い教養を身につけ、柔軟で創造的な思考を身につけたいと考えている。
- (2) 物事の本質を見極め、解決し、研究結果を通して社会に貢献したいと考えている。
- (3) 向上心が高く、修了後には研究者としてだけでなく、国連や外資系企業など国際的に活躍したいと考えている。

### 英語学専攻博士課程前期課程 アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
一般方式	専攻科目	●	●	
	面接	●	●	●
社会人方式	専攻科目	●	●	
	面接	●	●	●
留学生方式	日本語	●	●	
	専攻科目	●	●	
	面接	●	●	●
推薦方式	書類審査	●	●	
	面接	●	●	●

## 外国語学研究科 英語学専攻 博士課程後期課程

### 教育研究上の目的

外国語学研究科英語学専攻博士課程後期課程は、前期課程における研究成果に基づき、より専門性を深め、自立した研究者及び高度な専門業務従事者の養成を目的とする。

**学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）** 外国語学研究科英語学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（英語学）の学位を授与する。

1.
  - (1) 英語学、英語教育学、言語文化学の各分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ高度な専門知識、技能を身につけそれらを応用できる。
2.
  - (1) 専攻分野で研究成果を学術的な論文としてまとめ、それを国内外の学会で発表し、研究者として自立して研究活動を行う能力を身につけている。
3.
  - (1) 急激に変わりゆく現代社会で高度の専門性が求められる職業を遂行するための専門知識、技能を身につけている。
  - (2) 国内外の英語学、英語教育学、言語文化学の研究領域に対し、異文化に関する知識を深め、幅広い知識や柔軟で創造的な思考を身につけ、常に情報を収集、分析し、結論を導き論文にまとめ発表できる。

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学研究科英語学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容
  - (1) 英語学・英語教育学・言語文化学の各分野、もしくは複数の分野にまたがる広範囲な専門的知識及びデータ収集と処理を学ぶため特論科目群を置く。
  - (2) 英語学、英語教育学、言語文化学の各分野における先行研究の分析を通じた的確な判断力と自らの思考力を一層発展させる特別演習科目を1年次に置く。
  - (3) 自ら情報を収集・分析し結論を導き出して発表できるスキルを養う特別演習科目を2年次に置く。
  - (4) 国内外の研究領域に対し、幅広い知識と柔軟で創造的な思考を身につけ、常に情報を収集、分析し、結論を導き発表し論文にまとめるスキルを養う特別演習科目を3年次に置く。
2. 教育方法
  - (1) 主体的な学びを促進するために、特論科目群においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。
  - (2) 少人数の特別演習科目においては、インタラクティブな教育を実施する。
  - (3) 海外での体験学習の受講（留学）を積極的に推奨する。

## 3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の習得度合いを、英語学専攻における修了要件達成状況、単位取得状況、毎年の中間発表、複数教員による学位論文の評価等の結果によって形式的に測定するものとする。

## 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

外国語学研究科英語学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.
  - (1) 前期課程修了レベルの十分な学力を有している。
2.
  - (1) 英語及び関連する分野について強い問題意識を持ち、それらについて高度な専門知識や幅広い言語運用能力で判断し、それを効果的に表現できる能力を持っている。
3.
  - (1) 英語学、英語教育学、言語文化学の各分野で、前期課程で修得した能力を活かして、更に向上心をもって勉学に励み、修了後には自立した研究者として国際社会に貢献したいと考えている。
  - (2) 物事の問題の所在や本質を見極め、解決する高度な能力を獲得したいと考えている。
  - (3) 向上心が高く、修了後には国連や外資系企業などで国際的に活躍したいと考えている。

## 英語学専攻博士課程後期課程 アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
一般方式	専攻科目	●	●	
	面接	●	●	●
社会人方式	専攻科目	●	●	
	面接	●	●	●
留学生方式	日本語	●	●	
	専攻科目	●	●	
	面接	●	●	●



## 外国語学研究科 日本言語文化学専攻 博士課程前期課程

### 教育研究上の目的

日本言語文化学専攻博士課程前期課程は、日本言語文化学に関する高度な学識を修め、広い視野に立脚した研究能力及び高度に専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とする。

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学研究科日本言語文化学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（日本言語文化学）の学位を授与する。

1.

(1) 日中比較文学、日中比較言語文化学、日本語学、日本語教育学、言語学に関する専門的知識と分析能力を身につけている。

2.

(1) 日本言語文化学専攻での研究目標を明確に把握し、専門的な職業に従事するために必要な思考力、判断力、表現力を身につけている。

3.

(1) 日本言語文化学専攻で培った知識と分析能力を活用し、産業・教育・研究分野における今日的課題を解決するとともに、また国際社会で対応できる能力を身につけている。

(2) グローバル時代に要請される広い異文化理解に基づき、国際社会で発信できる能力を身につけている。

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学研究科日本言語文化学専攻博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

#### 1. 教育内容

(1) 専攻科目においては、日本言語文化学、応用日本語学における特殊研究と演習を通じて、それぞれの分野の研究方法を学ぶ。

(2) 実習科目においては、レポートや論文ならびに口頭発表の基礎レベルを学び、日本語能力を高める。

(3) 共通科目においては、言語情報処理をはじめとする分析に必要な技術を学ぶ。

#### 2. 教育方法

(1) 専攻科目、特殊研究科目群においては、学生の主体的な学びを促し、インタラクティブな教育の取り組みを進め、広くまた高度な知識や分析技能を学ぶ。

(2) 演習においては、少人数ゼミで資料やデータの分析方法を学び、レポート、論文、口頭発表にまとめる実践的スキルを学ぶ。

(3) 各種学会や国際シンポジウムへの参加を積極的に推奨する。

#### 3. 評価方法

(1) 修了要件となる単位取得条件を満たしている。

(2) 1名の主査、2名の副査によって、修士論文を審査し、評価する。

### 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

日本語文化学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.
  - （1）学部で修得した基礎学力を身につけている。
  - （2）高度な日本語能力を身につけている。
2.
  - （1）高度な専門知識と幅広い言語分析能力、文献学的考察の手法を身につけたいと考えている。
3.
  - （1）専門分野の研究を主体的に推し進め、学内外の研究会、学会、シンポジウムなどでそれぞれの研究成果を、積極的に発表したいと考えている。
  - （2）将来、研究者、教員、高度職業人として国際社会、地域社会において言語研究、多言語文化交流に携わりたいと考えている。

### 日本語文化学専攻博士課程前期課程 アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
一般方式	外国語科目	●		
	専攻科目	●	●	
	面接		●	●
推薦方式	書類審査	●		
	面接		●	●

## 外国語学研究科 日本言語文化学専攻 博士課程後期課程

### 教育研究上の目的

日本言語文化学専攻博士課程後期課程は、国際的な日本言語文化学研究者及び高度専門業務従事者の養成を目的とする。

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学研究科日本言語文化学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（日本言語文化学）の学位を授与する。

1.
  - (1) 日中比較文学、日中比較言語文化学、日本語学、日本語教育学、言語学に関する高度な専門的知識と分析能力を身につけており、それを新たな課題の解決に応用できる。
2.
  - (1) 日本言語文化学専攻での研究目標を明確に把握し、専門的な職業に従事するために、多角的で、深く、柔軟な思考力、また的確な判断力、表現力を獲得している。
  - (2) グローバル時代に要請される高度な異文化理解、摂取能力、海外との学術連携・共同研究を担う実務力、構築能力を身につけている。
3.
  - (1) 日本言語文化学専攻で培った高度で広範な専門的知識と的確な分析能力を活用し、産業・教育・研究分野において現代社会が直面する多様な課題を解決するとともに、国際社会において適切に対応できる能力を身につけている。
  - (2) 多様な異文化を広く深く理解し、国際社会で相互理解を図りながら的確に発信できる能力を身につけている。

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学研究科日本言語文化学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容
  - (1) 専攻科目においては、日本言語文化学、応用日本語学における特殊研究と演習を通じて、それぞれの分野の研究方法を学ぶ。
2. 教育方法
  - (1) 専攻科目、特殊研究科目群においては、学生の主体的な学びを促し、インタラクティブな教育の取り組みを進め、広くまた高度に専門的な知識や資料やデータを適切に分析する技能を学ぶ。
  - (2) 演習においては、少人数ゼミで資料やデータの分析方法を学び、レポート、論文、口頭発表にまとめる実践的スキルを学ぶ。
  - (3) 各種学会や国際シンポジウムへの参加を積極的に推奨する。
3. 評価方法
  - (1) 修了要件となる単位取得条件を満たしている。
  - (2) 1名の主査、3名の副査によって、博士論文を審査し、評価する。

### 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

日本言語文化学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.
  - （1）博士課程前期課程で修得した基礎学力を身につけている。
  - （2）高度な日本語能力を身につけている。
2.
  - （1）博士課程前期課程で修得した研究成果を踏まえて、より高度な専門知識と言語分析能力、文献学的考察技法を学び、それぞれの研究テーマにおいて高度な研究ネットワークを構築したいと考えている。
3.
  - （1）専門分野の研究を主体的に推し進め、学内外の研究会、学会、シンポジウムなどで研究成果を発表するとともに、独創的な知見に富む論文を執筆したいと考えている。
  - （2）将来は、研究者、教員、高度職業人として国際社会、地域社会において先端的な学術研究、多言語文化交流の指導的立場に携わりたいと考えている。

### 日本言語文化学専攻博士課程後期課程 アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
一般方式	外国語科目	●		
	専攻科目	●	●	
	面接		●	●
推薦方式	書類審査	●		
	面接		●	●

## 外国語学研究科 中国言語文化学専攻 博士課程前期課程

### 教育研究上の目的

外国語学研究科中国言語文化学専攻博士課程前期課程は、中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の3つの分野に関する専門的な学識を修め、より高度な言語運用能力と専門性を深め、専門分野別の知識それぞれの分野で世界に通じる研究能力、高度な中国語運用能力及び専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とする。

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

中国言語文化学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標を定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（中国言語文化学）の学位を授与する。

1.
  - (1) 中国語学・中国語教育学・中国言語文化学に関する高い専門知識と研究能力身につけている。
  - (2) 国際社会に貢献できる高度なコミュニケーション能力と応用能力を有している。
2.
  - (1) 専門分野において、専門的な職業に従事するために必要な思考力と判断力を備えている。
  - (2) 専門知識を駆使して、資料・情報の収集分析に基づき、結論を導き出す表現能力を修得し、独自に問題解決できる。
3.
  - (1) 旺盛な学習意欲を保ちながら新しい知識を追い求め続ける態度に基づき、国際社会における多様性を尊重し、多文化共生を意識しつつ多角的な視点から課題の探索と問題の解決に取り組むことを通じて、高度な専門性を自主的に構築できる。

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

中国言語文化学専攻博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容
  - (1) 専攻科目は、中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野にまたがる「特殊研究」と「演習」を通じて、専門知識と研究能力を修得する。
  - (2) 実習科目は、日中両語による異文化コミュニケーションの基礎的な技能や幅広い運用能力を身につける。
  - (3) 共通科目は、語学研究に必須な学際知識と言語情報処理の必要な技術を学ぶ。
2. 教育方法
  - (1) 中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の各分野が研究科目と演習科目を有効に内容配置しながらゼミ式で専門知識の学習と研究論文の作成を推し進め、指導教授による指導を徹底させる。
  - (2) 履修者に学会発表や論文投稿を積極的に推奨する上、課題設定、資料収集、原稿作成など実践能力の向上を重視する。
3. 評価方法
  - (1) 修了要件である単位取得を満たしている。
  - (2) 修士論文は審査委員会（主査1名、副査2名）による口頭試問を経て、評価する。

### 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

外国語学研究科中国言語文化学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的とディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.
  - (1) 大学を卒業して十分な基礎学力を有している。
  - (2) 中国語の運用能力を高めたいと考えている。
2.
  - (1) 専攻分野に対して高い判断能力・分析能力や論文作成の能力を身につけたいと考えている。
3.
  - (1) 幅広い教養を修得し、物事の本質を見極め、柔軟で創造的な問題解決の能力を身につけたいと考えている。
  - (2) 専攻分野の研究を主体的に推し進め、学内外で研究成果を積極的に発表したいと考えている。
  - (3) 将来、研究者、教員、高度職業人として国際社会、地域社会に貢献したいと考えている。

### 中国言語文化学専攻博士課程前期課程 アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
一般方式	外国語科目	●	●	
	専攻科目	●	●	
	面接	●	●	●
社会人方式	外国語科目	●	●	
	専攻科目	●	●	
	面接	●	●	●
推薦方式	書類審査	●	●	
	面接	●	●	●

## 外国語学研究科 中国言語文化学専攻 博士課程後期課程

### 教育研究上の目的

外国語学研究科中国言語文化学専攻博士課程後期課程は、前期課程における研究成果に基づき、より高度な言語運用能力と専門性を深め、専門分野別の知識を用い、自身の言葉で見解を展開でき、世界に通じる自立した中国言語文化学研究者及び高度な専門業務従事者の養成を目的とする。

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

中国言語文化学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（中国言語文化学）の学位を授与する。

#### 1.

(1) 中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ高度な専門知識と必要な関連技術を修得している。

#### 2.

(1) 研究成果を学術論文としてまとめ、指導教授の助言を受けながら出来るだけ自力で遂行する資料収集・材料分析・学術判断・データ整理・文章構築などの総合能力を身につけている。

(2) 高度な異文化理解、知識摂取、学術連携、実務担当など行動力と発信力を有している。

#### 3.

(1) 幅広い専門知識と創造的な学術思考の構築を目指し、国際社会における多様性を尊重し、多角的な視点から問題の解決と多文化共生の実現に取り組むことを通じて、時代の発展に順応できる人材として産業・教育・研究の諸分野の今日的課題を主体的に学び続ける態度を常に保っている。

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

中国言語文化学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

#### 1. 教育内容

(1) 専攻科目は、中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野にまたがる「特論」と「特別演習」を通じて、高度な専門知識と研究能力を修得する。

#### 2. 教育方法

(1) 各分野が特論科目と特別演習科目を有効に内容配置しながら専門知識の学修と博士論文の作成を推し進め、指導教授による論文指導を全面かつ綿密に行っている。

(2) 学会発表や論文投稿が履修要件として要求され、課題設定、資料収集、原稿作成など実践能力の向上を図っている。

#### 3. 評価方法

(1) 修了要件である単位取得数を満たしている。

(2) 発表論文の本数をクリアしている。

(3) 博士論文は審査委員会（主査1名、副査3名）による口頭試問を経て、評価する。

## 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

外国語学研究科中国言語文化学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的とディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.
  - （1）前期課程を修了して十分な専門知識や研究経験を有している。
  - （2）中国語の運用能力を実践的にレベルアップしたいと考えている。
2.
  - （1）専攻分野に対して高い専門性を有する判断能力・分析能力や論文作成の能力を身につけたいと考えている。
3.
  - （1）幅広い教養を修得し、物事の本質を見極め、柔軟で創造的な問題解決の能力を身につけたいと考えている。
  - （2）専攻分野の研究を主体的に推し進め、学内外で研究成果を積極的に発表したいと考えている。
  - （3）将来、国内外においてより有能な中国語の研究者、教員、高度職業人として社会に貢献したいと考えている。

## 中国言語文化学専攻博士課程後期課程 アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
一般方式	外国語科目	●	●	
	専攻科目	●	●	
	面接	●	●	●
推薦方式	書類審査	●	●	
	面接	●	●	●